

## オーバーユーズに起因した滑液包炎の病態と治療

○篠原 靖司 (しのはら やすし)<sup>1)</sup>, 熊井 司<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 立命館大学 スポーツ健康科学部

<sup>2)</sup> 奈良県立医科大学 スポーツ医学講座

オーバーユーズ障害はスポーツ障害のほとんどを占めているにもかかわらず、未だに治療法が確立されていないため、適切な治療法の選択に迷う。それはオーバーユーズ障害の主な罹患部位が腱・靭帯骨付着部 (enthesis) で起こっているからである。腱・靭帯骨付着部 (enthesis) は力学的負荷に適応するために線維軟骨組織で形成されているが、その結果として神経・血管に乏しくなり、損傷に対する修復能力が低くなる。滑液包は腱・靭帯骨付着部周囲組織 (enthesis organ) の一部として存在しており、従来考えられている shock absorber としての機能を含め、多岐にわたる役割を果たしている。加えて、enthesis organ 内で唯一、神経および血管が豊富に認められ、内腔には滑膜層が存在しているという組織特性より、腱・靭帯付着部の障害 (enthesopathy) に対する症候性要因を含めた損傷・修復反応に対する key organ であると考えられる (synovio-enthelial complex)。このことからオーバーユーズに起因した腱・靭帯付着部の障害 (enthesopathy) の治療を考える際には、enthesis organ 内の滑液包に対する何らかの働きかけが重要であるとわれわれは考えている。本シンポジウムでは滑液包炎の病態を組織学的に考察し、その病態から考えた治療法を紹介する。